

TRL・JACSES共同主催シンポジウム

イギリスと日本の交通政策： 地球温暖化と社会変革をもたらす方向転換



The Future of UK and Japanese Transport Policy: A Change in Climate?

地球温暖化が進む中、私達はいかにして持続可能な交通システムを構築することができるでしょうか。

世界初の法的拘束力を持つ温暖化ガス削減法案(Climate Change Bill)。ビジネス界からの支持が拡大する混雑税。成熟が進むE U排出権取引市場。そして、急速に広まる肥満・生活習慣病。イギリスの交通政策は現在、地球温暖化対策と社会変革によって大きく変わろうとしています。

同様に岐路に立つ日本の交通政策。道路特定財源の今後の行方、環境税・キャップアンドトレードの構想、鉄道・路面電車の有効利用を含めた都市再生化等、今後の政策決定を左右する大きな風潮に注目が集まります。

今回のシンポジウムは、両国の交通政策を取り巻くこうした最新事情をご紹介します、今後起こりうる社会的・技術的・環境的变化が私たちの毎日の移動をいかに変貌させるかを、両国の事例を紹介しながら多面的に検討します。以下の方を含め、どなたでもご予約の上ご参加下さい：

- 政府機関・地方自治体関係者・議員の方
- 学者・研究者・大学生の方
- 関連事業者・コンサルタントの方
- 日英の交通政策・社会事情の最新情報に興味のある方

【日時】 2008年1月26日(土) 13:30~16:30

【会場】 東京ウイメンズプラザ視聴覚室(定員:100名)

【参加費】 500円(資料代、JACSES賛助会員無料・サポーター半額)

【主催】 英国交通研究所(TRL)・(特活)「環境・持続社会」研究センター(JACSES)

【プログラム】(以下、敬称略)

第一部 日英交通政策比較

1. 「イギリスの交通政策を動かす三つのC: Climate, Congestion, Calories」

英国交通研究所 Sustainable Communities 研究員 坂本耕

2. 「日本の交通政策の現状と優先課題」

京都大学経済研究所特任教授/交通政策審議会交通体系分科会環境部会長 佐和隆光

3. 「日本の交通関連税制の課題」

「環境・持続社会」研究センター事務局長 足立治郎

質疑応答／意見交換

- ・ イギリスと日本の交通政策へのアプローチの類異点は何か。

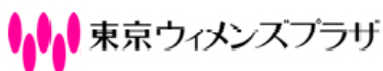
第二部 議論

発表者・会場の皆様の間で以下のテーマを中心に、自由な議論を予定しております：

<議題例>

- ・ 日本の課題（温室効果ガスの中長期目標設定は交通セクターをいかに変えうるか。持続可能な交通システムと環境税（炭素税・混雑税）の関係。排出量取引の可能性。高度交通システム（ITS）等の新技術の有効性、等）
- ・ 日英協力の可能性（両国お互いから何を学べるか。共同研究・開発の可能性。等）

【会場地図】



〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-67

●交通のご案内●

JR 山手線・東急東横線・京王井の頭線：渋谷駅下車徒歩 12 分
地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線：表参道駅下車徒歩 7 分
都バス(渋 88 系統)：渋谷駅からバス 4 分青山学院前バス停下車徒歩 2 分



【お申込み方法】

JACSESウェブサイト上の参加フォーム (http://www.jacses.org/form/form_event.html) にて、1月25日までに申し込みください。

【内容お問い合わせ先】

JACSES 足立治郎

jacses@jacses.org Tel: 03-3556-7323 Fax: 03-3556-7328

TRL 坂本耕

ksakamoto@trl.co.uk Tel: +44(0)1344770709 Fax: +44(0)1344770356

* 本シンポジウムは、英国外務省「Global Opportunities Fund」及び「環境再生保全機構地球環境基金」の助成を受けて行われます。